

大学間単位互換 e ラーニング授業 10 年間の取り組み

Activity Overview of Interuniversity e-Learning Credit Transfer Systems

阿部 一晴^{*1}, 馬渡 明^{*2}, 福廣 張順^{*2}
 Issei ABE^{*1}, Akira MAWATARI^{*2}, Harunobu FUKUHIRO^{*2}

*1 京都光華女子大学 キャリア形成学部

*2 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育事業部

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし: 大学コンソーシアム京都における大学間連携主要事業に、加盟大学等による単位互換がある。2009 年度から一部加盟校による先導的取り組み、2011 年度からはコンソーシアム全体を対象とした e ラーニング授業も提供している。しかし、ここ数年単位互換事業に対する期待や環境も変化しており、10 年目にあたる今年度で一旦これまでの e ラーニングの取り組みを終了させることとした。本稿では、これまでの実績や課題等について報告する。

キーワード: 単位互換授業, 大学間連携, コンソーシアム, e ラーニング

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、1998 年 3 月に文部大臣（当時）より財団法人（2010 年より公益財団法人に移行）としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。現在の事業は、単位互換、生涯学習、インターンシップ、高大連携・接続、FD、SD、国際連携、京都学生祭典、京都国際学生映画祭、大学地域連携・大学都市政策、全国大学コンソーシアム協議会、勤労学生援助など多岐に渡っている。この中でも加盟大学相互の単位互換事業は、財団の前身である「京都・大学センター」設立当初に開始された中核事業である。提供科目数も減少してはいるが、現在も 450 科目前後で推移している。ピーク時は年間のべ 10,000 名を超える受講者があったが、ここ数年受講者数は縮小傾向にある。これとは別に「京(みやこ)カレッジ」という名称で提供している社会人向けの生涯学習に毎年約 2,000 名弱の出願があり、このうち一部科目は単位互換事業に相乗りという形での受講となっている。

また、2008 年度～2010 年度に文科省 戦略的大学連携支援事業として採択を受け、加盟大学のうち 10 大学・短期大学の共同事業で構築した連携システムと制度を基にした e ラーニングによる単位互換授業の提供が加わった。この共同事業では、「e(いー)京都(こと)ラーニング」という名称のシステムを立ち上げ、2010 年度に遠隔講義による同期型授業と VOD による非同期型授業を試行提供し、連携校学生に限定した単位互換による授業提供を開始した。3 年間の補助事業終了後、構築したシステムおよび授業コンテンツ等は、大学コンソーシアム京都の単位互換事業に引き継がれ、受講対象も単位互換制度の包括協定をしている約 50 の大学・短期大学全体に拡大した。通常の単位互換事業に組み入れられて以降の 2011 年度から引き続き単位互換制度の一環として、

e ラーニング科目（非同期型 VOD 授業と教室での集合授業・VOD を組み合わせたブレンディッド型授業）の提供をおこなっている。

単位互換事業全体の受講規模縮小に伴い、相対的に e ラーニングの受講率が高まっているが、開始当初の「教養教育の共有化」という目的を含め、大学コンソーシアム京都内で今後の e ラーニング事業の方向性を明確に定めることができていないという問題もある。また、単位互換制度そのものを取り巻く環境も大きく変化していることもあり、e ラーニングに関しては 2018 年度を以て、事業そのものを一旦終了することとした。

2. 単位互換事業の概要

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。学生の幅広い関心や興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学など、複数の学問分野にわたる科目を 10 テーマに分類し提供している。

この単位互換事業には、約 50 大学・短期大学が単位互換包括協定を締結し、毎年 450～500 科目前後を提供している。受講者数は、ピークであった 2001 年度にのべ 14,000 名を超える出願、10,000 名を超える受講があった。

ここ数年の推移（京カレッジを除く単位互換生のみ）を見てみると、2014 年度は 516 科目提供、4,702 名が受講、2015 年度は 589 科目提供、3,412 名が受講、2016 年度は提供科目数が 457 科目と大きく減少したものの 3,120 名の受講があった。2017 年度も 435 科目を提供したが受講者数は 2,400 名とこれまでより大幅に減少した。全体の受講者数はここ数年減少しているが、提供科目数、受講者数ともに、大学間の単位互換制度としては日本最大である。しかし、大きな曲がり角に差し掛かっているのは間違いない。

3. eラーニング出願者数・提供科目数の推移

2011年度に正式な単位互換事業として包括協定をしている約50の大学・短期大学全体を受講対象として以来、これまでにのべ103科目のeラーニング科目の提供をおこなった。

表1・図1に示すとおり、ここ数年単位互換事業全体およびeラーニング科目への出願者数が大幅に減少していることが分かる。出願者数全体に占めるeラーニングの割合も一時相対的に拡大し、その役割がある意味重要になってきていたが、提供科目数の減少もあり2015年度の20%弱をピークに単位互換全体に於けるeラーニング科目出願率も大きく減少している。

表1：単位互換出願者数推移

	2011	2012	2013	2014
単位互換出願者数	6,030	6,055	5,754	5,287
eラーニング出願者数	507	784	974	808
eラーニング出願率	8.4%	12.9%	16.9%	15.3%
	2015	2016	2017	2018前期
単位互換出願者数	3,615	3,369	2,549	1,762
eラーニング出願者数	695	567	297	125
eラーニング出願率	19.2%	16.8%	11.7%	7.1%

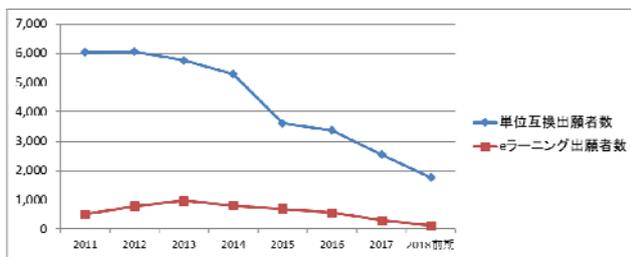


図1：単位互換出願者数推移

この間eラーニングによる提供科目数は、2011年度・2012年度14科目、2013年度17科目、2014年度16科目、2015年度15科目、2016年度13科目、2017年度9科目となっている。これまでの提供科目と受講者数は表2のとおりであり、のべ4,757名の受講があった。

表2：eラーニング提供科目・受講者数

科目名	開講大学名	受講者数
eビジネス論	京都光華女子大学	67
インド仏教史	京都文教短期大学	16
キャリア形成論	京都文教短期大学	165
コミュニケーション論	京都文教短期大学	856
コンピューティングファンダメンタルズ	京都光華女子大学	170
リビングオンライン	京都光華女子大学	91
京都学：京都の食文化を知る	京都ノートルダム女子大学	542
経営情報論	京都光華女子大学	224
経営情報論a	京都光華女子大学	101
経営情報論b	京都光華女子大学	104
自然と観光	京都嵯峨芸術大学	135
消費者取引と大学生	京都産業大学	85
消費者取引と大学生～理論と実践の対策～	京都産業大学	133
情報科学	明治国際医療大学	362
情報処理技術	京都学園大学	314
数の理解	京都光華女子大学短期大学部	325
統計学(社会現象をデータで理解する)	京都女子大学	197
特別開講科目2「仏教のこころー真実と救いー」	京都女子大学	18
特別開講科目4「仏教のこころー真実と救いー」	京都女子大学	160
日本史特殊1B「京都の近代」	京都女子大学	152
日本伝統文化論：雅楽はどこからきたのか	京都ノートルダム女子大学	29
仏教の人間観I	京都光華女子大学	1
仏教学入門	京都文教短期大学	81
大甲作品をよむ『小説源入一室』の探検ー一編と探検の深いをよむからー	京都文教短期大学	429
総計		4757

授業ごとの受講者数も、科目によって数名から200名弱と幅がある。また、科目内容もある意味多

岐に渡っているとさえないこともないが、前身となった戦略的・大学連携事業時に掲げた「教養教育の共有共用化」という目的には少し遠いというのが実状と言わざるを得ない。

4. 単位互換事業におけるeラーニングの今後

単位互換eラーニング科目は、前述のとおりこれまで多くの学生が受講した実績がある。一方、通常授業とは異なり時間や場所に拘束されないことから、一部学生の単位数稼ぎ目的等の安易な受講に繋がっている面も否めない。また、科目開設や運営のための人的負担や設備・機材の維持、更新等の経費負担も重いものとなっている。

eラーニング科目の提供は、2008年度からの文科学 戦略的・大学連携支援事業としての採択が基になっており、その事業趣旨に鑑み、長期的な視点で取り組んできた。ちょうど取り組みの端緒から10年を迎えるにあたり、単位互換事業・生涯教育事業等を所管する教育事業企画検討委員会で検討の結果、費用対効果や昨今の加盟校の単位互換事業への期待の変化等から、2018年度末を以ってこれまで継続してきたeラーニング科目の提供及びプラットフォーム運営の維持を一旦終了することとした。

5. まとめ

これまで約10年間にわたり取り組んできた大学コンソーシアム京都におけるeラーニングは、役割を終えることになったが、直近に実施した加盟校を対象とした単位互換事業に関するアンケートの回答では、地理的な距離の問題等から、通常の科目提供大学キャンパスや大学コンソーシアム京都の拠点であるキャンパスプラザ京都で実施される単位互換授業に参加が難しい大学から、距離を超えた形で参加できるeラーニング授業の継続を求める意見もあった。今後は、大学に求められる教育機能や各大学の教育目標との関係で、どのような単位互換科目が必要か、またどのような単位互換の仕組みが必要かを絶えず評価、改善し、大学コンソーシアム京都としての特色ある単位互換事業のあり方を検討する中で、eラーニングなど新たなICT技術を活用したシステムの構築を含む様々な可能性を議論することが必要であると考えている。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順, 後藤充弘: “eラーニングから見た大学間単位互換事業の課題”, 教育システム情報学会, 第42回全国大会講演論文集, pp.407-408, (2017)
- (2) 阿部一晴, 前田昭吾, 馬渡明, 後藤充弘: “大学コンソーシアム京都単位互換eラーニングシステムの再構築”, 教育システム情報学会, 第41回全国大会講演論文集, pp.79-80, (2016)
- (3) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2018)
- (4) e京都ラーニング, <https://el.consortium.or.jp/> (2018)